

校種を記載(小・中・高等・特別支援)

学習指導案(かながわティーチャーズカレッジ)(記入上の留意点)

() 学校 受講者番号 25() () G() 名前()

教科等の名称	学習指導要領に記載の各教科・科目または各教科領域を記入	学年または部門・学部・学年	小・中・高: ○年 特別支援: 視覚/聴覚/知的/肢体/病弱 /小学部/中学部/高等部
--------	-----------------------------	---------------	---

1 単元(題材)名

各教科の学習内容のまとめを指す。学習指導要領の内容から考えるとよい。図画工作科や美術科、音楽科、家庭科などでは、「題材」として捉える。

2 (特別支援学校のみ)子どもの実態・グループの実態

特別支援学校のみ記載、他校種では不要

子どもの実態、学年、本単元(題材)にかかわる日常生活や学習面の様子、単元(題材)とのかかわり、学習内容への関心、意欲、技能・態度等の諸能力、関連する諸経験、現在の課題等を想定し記載する。

3 単元(題材)の目標

(知識及び技能)	○子どもの目標の実現に向けた評価ができるよう、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って、具体的な行動目標として示す
(思考力、判断力、表現力等)	○学習指導要領の各教科等の「目標」「内容」に基づき、「身に付けさせたい力」を子どもの実態に合わせて考える
(学びに向かう力、人間性等)	

<評価規準とは>

学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現された具体的な姿のこと

4 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・～している、～できる	・～している、～できる	・～しようとしている、～している

○上記の「単元(題材)の目標」を基に文末の表現を変更

5 単元(題材)の指導と評価の計画(時間)

時	学習活動	評価の観点			評価方法
		知	思	態	
	○単元のどこで、どの「評価の観点」を、どのような「評価方法」で見て取るかを計画し、その「評価の観点」における「評価規準」を実現するための学習活動を考える				
<記入例>					
6～8	○二次不等式とその解について、二次関数のグラフとの関係を考察する。	○			ワークシート
9(本時)	○二次不等式の解を求める。	○			小テスト

6 本時の指導計画

本時の目標	「教科の目標」や「単元(題材)の目標」を基に、この時間に学習者がどのような力を付けるかということについて記載する。	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
○学習者を主語にして記述 例)「考える」「発表する」等 ○予想される学習者の反応も記すとよい ○授業を振り返り、成果を確認できる場面を設定 <特別支援における留意点> ○導入時には、子どもの興味・関心を引き付ける。 ○展開時には、一人ひとりの目標に沿った活動を展開するとともに、充実感や達成感を味わえる場面を設定	○授業者を主語にして記述 例)「考えさせる」「発表させる」等 ○指導者側の留意点や働きかけを記述 ○活用する教材・教具等についても記述 <特別支援における留意点> ○子ども一人ひとりに各展開でどのように支援するか	<記入例> 【知識・技能】 二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係を基に、二次不等式の解を求めることができる。 (小テスト)		